

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	191300011		
法人名	社会福祉法人 輝美福祉会		
事業所名	グループホームてらみ		
所在地	北海道北広島市輝美町2番地3		
自己評価作成日	平成27年8月13日	評価結果市町村受理日	平成27年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [index.php?action\\_kouhvou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0191300011](http://index.php?action_kouhvou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300011)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームとしては珍しく厨房に食事を依頼している為、買い物や食事作りにかかる時間を入居者様個々のニーズにお応え出来る様努めております。</p> <p>2つのユニットが同じ階にあり、入居者様が自由に行き来出来、体操やレクなど一緒に楽しませております。又スタッフ間の協力体制も強化されます。</p> <p>1階には大浴場があり、好まれる方はそちらで入浴されています。リフト浴も設置しているので怪我や足・腰等不自由になった時も対応可能です。</p>
--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成27年9月10日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当グループホームは平成20年に開設し8年目を迎え、わーかーびいグループの一法人として再スタートしています。わーかーびいグループの「たった一人の障がい者や高齢者、社会的困難をかかえている方々の希望する声や願いにこたえること」を原点として、輝美福祉会は更なる職員の意識改革に取り組み、ケアサービスの質の向上に向けて職員は日々研鑽に励んでいます。「さくら」と「もも」の2ユニットは2階の同じフロアで、開放感があり、利用者は自由に往来し楽しんでいます。職員間も緊急時には互いに協力し合う関係性を築いています。1階には小規模多機能事業所が併設しており、季節の行事を合同で執り行うなど、利用者、職員の交流も図られています。地元ボランティアとの繋がりも深く、夏祭りや敬老会、カラオケ大会、餅つき大会、避難訓練など事業所の行事には欠かせない協力者となっています。また、26年度から、障がい者支援事業所ホホエムとのコラボレーションにより、事業所内に喫茶れざみを月に1度出店して頂くなど交流の輪を広げています。カラオケコーナーも設けて、利用者、家族から大変喜ばれ、楽しみ事となっています。1階の大浴場で入浴もゆったり寛げると利用者に喜ばれています。誕生日には家族の協力を得て、外食や外出の希望を叶えるなど、職員は利用者の意思を尊重しながら、「それぞれに応じた明るい生活・・・」互いに支え合い、趣味や楽しみを見つけられる様な支援・・・の理念に沿ったケアサービスの実践に取り組んでいます。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有しやすい理念を職員が中心となり作成し、常に理念に沿ったケアが実践できるように心掛けています。	職員全員の意見を集約したホーム独自の理念を作りあげ、重要事項説明書にも記載しています。朝の申し送り時や毎月のカンファレンスなどで実践の確認を行っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は不十分ですが、地域のボランティアさんによるカラオケ大会やオカリナ演奏会、お祭り、餅つき、避難訓練等に参加して頂き交流を深めています。	連合町内会に加入しています。地元のボランティアの協力を得て、事業所の行事の際は舞踊やカラオケ、オカリナに琴演奏などを披露して頂いています。幼稚園児の訪問も受け、演奏や合唱を披露して頂くなど交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの電話での問い合わせを始め、随時施設見学を受け入れ、支え合いボランティアの実習にも対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、市の職員、包括支援センター職員、民生委員、御家族様、入居者様等に参加頂き、活動報告や意見交換を行っています。	運営推進会議は、併設の小規模多機能と合同で、行政職員、地域包括支援センター職員、民生委員、家族及び利用者の代表の参加を得て、2カ月毎に開催し、運営状況の報告や意見交換を行っています。	様々な視点で事業所のモニター役を担っていただくためにも、より多くの家族や幅広い立場の人の参加協力を得る取り組みに期待します。また、事業所の現状に即した議題や課題など、テーマの工夫に取り組み、会議の充実を図ることを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当の方に参加頂き、入居者様の状況等を報告し情報交換を行っています。	市主催のふれあい学習センターで開催される研修会には、職員が参加し情報の共有を図っています。認定更新時には管理者が対応し情報の共有を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部研修に参加し、又カンファレンス等で職員同士で話し合いを行い実践しています。夜間は玄関の施錠のみ防犯の為にしています。	小規模多機能と合同で、不適切ケアを無くすための研修を実施しています。毎月のカンファレンスでもテーマを決めて内部研修を実施し、身体拘束の弊害について理解を深めています。スピーチロックについても職員間で注意しあい、拘束の無いケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる不適切ケアの研修から始め日頃のケアを振り返り、課題をみつけ、毎月課題に取り組み、結果をカンファレンスで話合っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての学ぶ機会は、研修案内で行っています。必要性ある方には活用出来る様支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定の際に説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。又ご家族様面会時や電話の際声掛けを行い意見や要望を聞くよう努めています。	日常の会話から利用者の要望や意向を把握しています。また、家族の来訪時や電話連絡時にも、思いの汲み取りに努めています。2か月毎のホーム便り「輝」を配布し、利用者の暮らしがカラー写真で掲載され家族に喜ばれています。家族会の発足を検討しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や管理者会議、カンファレンスで、職員の意見等を聞く機会を設けています。又個人面談も実施しいえいます。	毎月のカンファレンスや職員会議の場において、職員の要望や提案などの聞き取りに努めています。職員の採用や研修の実施希望など職員の質の向上に向けて取り組んでいます。個人面談も年2回実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績、勤務状況を把握し研修の参加等を通し向上心が持てるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加して頂き、又日々の業務の際アドバイスをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し情報交換、交流を深めています。グループホーム間での見学交流会も実施し、職員も参加しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の気持ちを傾聴し対応出来る様努めています。情報等職員間で共有し、信頼関係を築き安心して頂けるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に御家族様の意見や要望を聞き、取り入れられるように努め、安心して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の話をよく聞き、生活の中で何を一番必要としているか話し合い、検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様と一緒に出来る家事等を日々検討し、一緒に行う事で支え合う関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で話す際、御本人の様子をお伝えし共に支え合う関係を築けるよう努めています。又外出レクや行事等一緒に参加出来る機会を設けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも知人や友人と面会や電話等で会話が出来、馴染みの方との関係が途切れない様に努めています。集会の参加等調整も行っています。	利用者の希望に応じて、婦人会や教会の集会への参加や馴染みの美容室訪問など職員や家族の協力の基に支援しています。また、家族や友人の訪問時にはお茶を持って成し、寛げるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々一緒に過ごしている中で馴染みの関係が築けています。必要に応じて職員が架け橋となり孤立している人に声掛けをし、お互いに支え合えるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも施設に飾るお花を持ってきて頂いたり、町でお会いした時は挨拶の様子を聞かせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での様子や会話を通して、希望や願いを把握に努めています。職員間の情報交換も密にし、本人本位の支援に努めています。	職員は勤務開始時には必ず連絡ノートにて利用者の情報を収集し、情報の共有を図っています。利用者の日頃の言動や状態を把握して、希望、要望を尊重したケアについて協議しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の関係機関からの情報や御本人、御家族からの情報を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、申し送り、生活記録、カンファレンスにて日々の生活状況の把握。異常時には看護師へ報告し対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護員、看護師の情報、生活記録をもとに、モニタリングし、御本人や御家族訪問時に意向を伺う。月1回のカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。	月1度のカンファレンスにて、利用者個々の担当者が中心となり、生活記録を基に、モニタリングを行い、看護師や職員の情報を集約し、利用者や家族の意見、要望も反映した介護計画を作成しています。定期見直しは4か月毎に実施していますが、緊急時は随時見直しをかけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の生活記録に日々の状態を記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お誕生日のお祝いなど個々に合った対応を行っています。その時々生まれるニーズに柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんによる、カラオケや麻雀支援の活用、公園の散歩や買い物等も支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力医院の他、馴染みの病院に行けるよう、看護師、職員で受診対応しています。又訪問歯科も対応しています。	協力医療機関及び市内・外のかかりつけ医への受診は、看護師、職員が受診支援に努めています。歯科医は、週に1～2回の訪問受診で対応しています。週3回の看護師訪問にて日常の健康管理に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師がいる時は、入居者様の状態に変化があった際報告、相談しています。夜間は、電話対応、必要時には駆けつける体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、御家族の了承を得て、医師からの説明に同行しています。医療ソーシャルワーカーと連携を取り、情報交換など行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期ケアの同意書は頂いています。症状が見られた時には、御家族様と良く話し合い、事業所で出来る事を説明し方針を共有しています。	重要事項説明書内に医療連携体制及び看取り介護を明示しており、重度化や終末期における対応指針を明文化し、本人、家族に説明を行い同意を得ています。看取りを経験しており、急変時は関係者と段階的に情報を共有し、適切な支援が出来る様に取り組んでいます。	看取り介護を明示しており、事業所での看取りが重要視される現状で、職員の倫理観や技術の向上が求められます。事業所として適切なサービスが提供出来る様に環境整備に取り組むと共に、ターミナルケア研修など職員に学ぶ機会を設けることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の大半が救命講習を受けています。緊急時対応マニュアルも作成し、24時間、看護師との連携体制、AEDも施設内に設置、いつでも使用できます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に、地震・火事・日中・夜間と様々な想定で行っています。実施の際は地域のボランティアさんにも参加頂いています。	年2回、消防署指導の基に、併設の小規模多機能と合同で、昼・夜・地震などを想定した避難訓練を実施しています。ボランティア鶴寿会のメンバーの参加協力を得ています。緊急時対応マニュアルを整備し、AEDも設置しています。	災害はいつ起こるか分からないので、利用者が避難できる方法を全職員が身に付ける必要性が有るため、法定基準の年2回に加えて、継続的な自主訓練の検討を期待します。また、自然災害時対応として、備蓄品の準備(食料・飲料水・防寒対策品など)も期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室、トイレは本人の意思で施錠する事が出来ます。人格を尊重した声掛けに努めています。	職員は接遇マナー研修を受け、言葉使いや対応に注意を払い、利用者への呼びかけに「さん」付けを心がけるなど、尊厳を重んじるケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望が自己決定出来る様、心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人のペース合わせ起床や就寝、食事の時間など対応出来るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方には着る服を選んで頂く、訪問美容室や馴染みの美容室の利など、おしゃれが出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注ですが、夕食のご飯炊き・味噌汁作りは毎日、行事食や手作りランチ等定期的に入居者様と作る機会を設けています。給食会議を実施し要望等お伝えしています。	食事は業者に委託していますが、給食会議で献立や嗜好、味付けなど、利用者の要望を取り入れています。毎夕食の味噌汁や手作りランチ、行事食、おやつ作り、漬物作りでは、利用者の得意分野で能力を発揮して頂きながら、食事が楽しみとなる様に工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量、水分量は記録しています。食事、水分摂取量が不足のときは、個々の状態に応じ対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御本人の能力に応じた口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別カンファレンスを行い、個々に合った声掛け、定期誘導、トイレの際の介入等検討、実施しています。	自立排泄の利用者が殆どですが、介助の必要な利用者には、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を支援しています。衛生用品もパット使用者が多く、夜間のみポータブルトイレやオムツを活用し、日中は布パンツ使用で、自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の意見を踏まえ、水分摂取、運動等を取り入れ予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	デイサービスの大浴場利用時は時間の制限が多少ありますが、グループホームのユニットバスでは、柔軟に対応しています。週2回以上入浴実施しています。	利用者は1階の大浴場でゆったりと入浴を楽しんでいます。各事業所にはユニットバスも設置されていますので、利用者の状態によってはシャワー浴などで活用しています。週2回以上の入浴を支援していますが、拒む利用者には無理強いせず、清拭などで清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の希望や状態に応じいつでも自宅で休んでもらえるよう支援しています。定期的のリネン交換により、気持ちよく眠れるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書にて効用、副作用の把握に努めています。変更があった際は周知徹底し、不安時、疑問時は看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の希望に合った家事手伝いをお願いしています。外食や外出、好みのゲームや遊びを提供し気分転換の支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって外出出来る様、努めています。又季節に応じた外出も企画し、御家族との外出支援も提供しています。	季節に応じた外出計画を立て、花見、苺狩り、紅葉狩りなど外食やドライブを兼ねて支援しています。日常的には敷地内のてるみ農園での農作業や花壇の水やりなど外気浴も楽しんでいます。誕生日には利用者の希望を叶えて、家族と共に外食に出かけています。また、家族の協力を得て、買い物や墓参り、馴染みの美容室に通うなど、個々の対応にも取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能または御本人や御家族希望により必要時支援出来る様にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれた際は一緒に投函したり、投函の代行も行っています。電話も希望があれば対応、又御家族や知人から電話があった際も、会話出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットの仕切りがなく開放的で、共用空間は家庭的な雰囲気、季節感を感じられる装飾をご利用様と作成し飾っています。室内の温度、湿度に気をつけ、居心地良く過ごせるよう配慮しています。	2ユニットが事務スペースを中心として左右に配置されています。ユニット内は回廊式で廊下も広く、台所や事務のカウンターの高さが抑えられ、全体が見渡せて広く開放感のある空間になっています。利用者も自由に行き来して過ごしています。内部はバリアフリー設計で、トイレは車椅子対応になっています。窓からの陽射しは心地よく季節を感じさせ、利用者それぞれがゆったりと過ごせる場所も確保され、居心地良い工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内で皆さんと会話やゲーム楽しめる場所、一人でゆっくり雑誌やテレビを楽しめる場所等、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や愛用している物を持ってきて使って頂いています。仏壇や冷蔵庫等も希望にて置かれている方もいます。	居室には、身の回りの物が整理し易い押入れが設置されています。利用者は、それぞれに使い慣れた家具やテレビ、仏壇などを持ち込み、写真や絵や習字などを飾りながら、安心して寛げる居場所を作りあげています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別カンファレンスで歩行時付き添い、見守り等検討しています。貼り紙をしたり、声掛けで誘導したりと、自立した生活が送れるよう工夫しています。		